

新年あけましておめでとうございます。
今年も宜しくお願いいたします。

2015新春号

平成27年1月1日発行 No.8

NPO 法人 元気おおとよ新聞

発行元：特定非営利活動法人 元気おおとよ <http://www.genki-otoyo.org>

■ 西峰音楽キャンプを終えて



11月1日・2日、西峰で地域住民との交流イベントとして、「西峰音楽キャンプ」を行いました。子供からお年寄りまで楽しんでいただけるように、音楽アーティストやパフォーマンス、お店の出店にと、大豊町以外にも西峰にたくさんの方々に来ていただき、ありがとうございました。

「もし、西峰でイベントを行えば、どれだけの方々が集まっていたくれるだろう？」と、不安と期待をしながら、西峰公民館とグラウンドで、イベントの準備を始めました。開催日が近づくにつれ、参加、出店、来場者の声を多く聞くようになり、うれしくなりました。が、イベント当日の天気予報が雨。急遽、会場を体育館に移すことになり、グラウンドのステージや飾り付けの移動、変更により、考えていた準備や飾り付けなどが、間に合わなくなってしまいました。イベント前日、当日には、来ていただいたみなさまの協力により、イベントとして始めることができたことに感謝しています。

来ていただいた方の中には、高校生や、高校や大学の先生方も来られて、「高齢化と過疎化が進む大豊町、西峰地域のこれからを、いっしょに考えていこう。」と、言ってくださっています。

このイベントをきっかけに、多くの方との出会い、交流がもてたことで、一人一人が、これから何をすれば良いかを考え、行動するきっかけになれば・・・。（地域おこし協力隊 山崎）



■ 第1回アーティスト・イン・レジデンスで滞在された川原将太さんインタビュー



アーティスト・イン・レジデンス（芸術家支援事業）により、大豊町・穴内地区に3か月間滞在され、抽象画の創作に没頭された川原将太さんに野田理事長がインタビューしました。

野田（以下）：3か月の滞在期間を振り返っていかがですか？

川原：自分自身とじっくり向き合うことができ、貴重な時間でした。この環境を提供してくれた穴内地域の方や元気おおとよさんに深く感謝します。

ー そもそも芸術の道に進んだきっかけは？

理由はわからないけど子供のころには「旅の絵描きになる」と決めていた。実際本格的にその道に進んだのは大学からで、卒業後はいろんな仕事をしながら作品を制作していました。

仕事は単なる収入を得る手段としてとらえるのではなく、社会の中での役割・関わりといった深い部分を考えてみると、仕事に対する感じ方が変わると思う。僕にとって絵を描くことは、人を喜ばせたい、社会を変えたい、という自己の思いを表現する手段であり、収入を得る手段でもあるのです。

ー 世界各国でボランティア活動やアーティスト活動をされてきて、なぜ35歳で農業の世界に踏み込んだのですか？

世界中の農家さんと出会い、お手伝いしているうちに、世の中に絶対必要で、人や自然にダメージを与えない唯一の職業は、農業と医療だと考えるようになりました。それに気づいたときには医者になるのは無理だったから。(笑)

20歳ぐらいから農業に興味があったのと、直感的にこれから新しい農業の時代が来ると感じたのが大きな理由かな。

でも自分自身が農家になるのはちょっと違うなと思ったので、農家を目指す人を応援しようと、ファームビズの農業インターンシップ事業に従事したわけです。

ー なるほど。それが縁で嶺北に来ることになり、大豊で創作活動するチャンスに巡り合えたということですね。川原さんの考える芸術（アート）の役割とは？

創造力（クリエイティビティ）を養うためのもの。創造力とはイマジネーション（想像力）とスキル（技術）からなっていて、技術は外部からの情報を蓄積させるもので、想像力は頭の中に培われるもの。想像力を養うためには、遊ぶこと・失敗すること・リラックスすること・楽しむことが大切だが、大人になるにつれて自由にできなくなる。それを補うためにアートがあると思う。

アートに触れることはイマジネーションを刺激し、自分の中の創造力を引き出すことにつながる。

ー 今後の活動予定は？

年が明けたら、タイ〜マレーシア〜インドネシアへ旅をして、夏にはアメリカ・シカゴで絵の展覧会を開く予定です。

ー 「旅の絵描き」再び、ですね。体に気を付けて楽しんでください、そしていつかまた、大豊町に立ち寄ってください。

(了)



■ 大豊どこでしょう？（第4回） IN 北川・久寿軒地区

今回の大豊どこでしょう？は北川と久寿軒地区を散策です。昔から32号線を通るたびに、北川駅に渡る橋から向こう側は未知の領域、今回も大豊町を開拓してまいりたいと思います！！

地区は駅舎が橋の上にあることで鉄道好きの間では有名？なJR土讃線北川駅から東に向かって林道を進んで行ったところにあります。

今では、住民も減り小さな集落となっていますが、昔は北川小中学校があり、それなりの集落だったと聞きます。林道を進んで行くといたる所で棚田や畑が確認できました。畑はしっかりと整備され、今の時期は終わっていますが棚田もきれいに作られており、秋にはきれいな棚田が望めると思われる風景が広がっております。



集落を抜けると『六本の滝』という看板が現れました。滝となると行かずにはいけないメンバーたち、すぐさま目的地に設定！しかし、看板を頼りに進んで残すところ約1kmというところで舗装が途絶え、車の底が擦りだしたので、メンバーの一人に撮影を頼むことに。（この日筆者は昨日1歳になったばかりの娘と80歳オーバーの祖父を連れていたため断念しました）



撮影したメンバーによれば車を降りて約20分、すこし険しい山道を歩くと六本の滝が見えてきたとのこと、小さめの滝ですが幾つかの滝が段になって流れており、このことから六本の滝という名前の由来なのでしょう。か？珍しい滝ではないでしょうか。私も次回は直に見に行きたいですね。

（道が狭く、普通車や車高の低い車では近くまで行くのは困難かと思われますので最後は徒歩で行くようにしてください）

その後は、北川小中学校跡地に行った後、北川溪流の終点まで足を運んで今回の大豊どこでしょう？を終了しました。今回は冬の時期でしたので、春や秋にはまた違った景色を見ることができることでしょう。興味がある方は休日の空いた時間にでも訪れてみてはいかがでしょうか？新たな発見があるかもしれません。（猪野大）

<第5回ラミーキューブ大会 はるひ畑カップ 結果>
2014年11月22日 みどりの時計台で開催

1位 那須 久美子さん

2位 杉本 晃代さん

3位 竹田 広太郎さん

おめでとうございます！

■ コラム フェイス to 地球温暖化

昨年12月の2日、3日、4日と続けて、「国連の会議」「世界の環境保護団体で作る組織」「日本の環境省」から、地球温暖化について発表がなされました。また、日本が環境保護団体組織から「化石賞」というあまり好ましくない賞に選ばれたりしました。いずれも重要な内容だと思いますが、新年号にちなみ今回は、希望の持てそうな話題を紹介します。

「世界風力エネルギー協会」が予測発表

世界が地球温暖化対策に意欲的に取り組めば、世界の風力発電能力の向上や、それに伴う温暖化の原因となる二酸化炭素（CO2）の排出削減、また雇用効果にもつながるとの予測で、概略は以下のとおり。

- 2013年末（結果）
電力供給量に占める世界の風力発電能力は3パーセント。中国の伸びが大きかった。
- 2030年
風力発電能力は、現在の6倍に達し、電力供給量の約20パーセントを占め、CO2の排出量を年間30億トン以上削減できる見込み。加えて約220万人の雇用を生み出す。
- 2050年
世界の電力の30パーセント前後を供給可能。中国を筆頭に、欧州、北米をはじめ、今後は、インド、ブラジル、メキシコ、南アフリカの導入が活発になると予測。
- ◎日本について
2013年末の国内の電力供給に占める割合は、0.5パーセント。2013年の導入量は少なかったが、洋上風力発電の開発が進んでいるとして「2016年以降に市場が急成長する」と予測。

■ そばの実落とし ～伊達蕎麦栽培プロジェクト～

11月24日。秋の終わり。佐賀山にある渡辺さんの牧場で「そばの実落とし」を行いました。天候にも恵まれ心地よい日差しの中での作業となりました。このそばの実は、8月26日に種を植え10月に刈り取りをしたもので、約1ヶ月間乾燥させておいたものです。

今回、脱穀した蕎麦の品種は、有名な「伊達騒動」事件を起こした双方が処分となり、藩主の大叔父に当たる伊達表部は土佐に流罪になりました。その時に持って来たのが蕎麦のタネ。高知城の西に位置する小高坂の屋敷内の畑で育て、他の種類と交配しないで守られてきたのがこの蕎麦です。そのタネを大豊で育てて欲しいということで今年二回目の収穫となりました。少しずつ量を増やしていきたいと考えていますが、さてお味はどうでしょう？



まずは稲穂のように乾燥させてあるそばの束を地面に敷いたビニールシートに集めます。そばの実落としは初体験の自分たちはたくさんの量のそばの穂に大変驚きました。全部で50本はあったかと思います。ここからどうやって実を取っていくのだろうと考えましたが、その方法はいたってシンプル。穂の先端になっている実を30～40センチほどの木の棒で叩くだけでした。棒で叩くと実が勢いよく飛んでいきました。シンプルな作業でしたが、これがとても大変でした。棒でよく叩いて実を落とそうとしますが、なかなか実は落ちない。皆で分担しながら一束をきれいに落とすには何度も何度も根気よく叩き続けました。そばの実落としの熟練者に教わると段ボール等を下敷きにして、叩く際にバウンドさせるとよく実が落ちることでした。約1時間でそばの実落としが完了しました。手にマメができるほど苦労して落としたそばの実には黒く光っていて、何だか宝石のようにも見えました。この黒い三角の実の中に真っ白の粉が詰まっているようです。

次はそばの実と、一緒に落ちてきた葉っぱやチリを取り除く選別作業です。まずは大きな枝やゴミなどは手作業で取り除きます。あとはトウミ《唐箕》という昔ながらの農機具を使います。私たちも農家の生まれながら、初めて拝見致しました。トウミについているハンドルを回すことによって内部の風車が風を発生させ、上の投入口から落としたそばの実を飛ばします。すると、軽いチリは飛んでいき、重いそばの実は下に集められるという構造でした。ただハンドルを回すと聞けば簡単ですが、微妙な風量の違いによってそばの実までチリに混ざってしまうなど使いこなすのは難しいようです。熟練者の手によってきれいに選別された袋いっぱいのおそばの実より一層黒く輝いて見えました。トウミは使いこなせないものの私たちも投入口に選別前のそばの実を入れるお手伝いをさせていただきました。

選別したそばの実の重さを計てみると、合計で14キロ。ここから製粉によって7割ほどの重さになるようです。

作業後は製粉機を使って実からそば粉を製粉し、打ち立てのそばを試食させていただきました。半日の農作業の達成感からくる何とも言えない味を楽しむことができ、また、挽きたて・打ちたてのそばの香りはとても素晴らしかったです。今後もこのそばを栽培し、活動に役立てられるよう頑張っていきます。（上村・小笠原）

まとめに同協会は、

「風力発電は発電の中で最も低コストの選択肢になってきた。今後も価格は下がり続ける」「CO2を早期に削減するため、風力発電が世界のエネルギー供給の中心を担うのは確実だ」

<電力無要の コ・タ・ツ>

2014年の新年号で紹介しましたが、あの時は回覧でもあったので、より周知を願って再度紹介させていただきます。熱風を送るストーブにのみ当てはまると思いますが、写真のようなパイプ式で、ストーブの熱風をコタツに送り込みます。コタツの中はそれだけで温かくなります。価格は1,500円前後、ホームセンター（すべてには置いてないようです）で購入できます。

○直径10センチ、伸縮自在で最長2メートル70センチまで伸ばせ、曲げることも可能。

○器具自体も熱くなるので床との間に板などをはさむ。熱風の量を加減できる器具を別売。

（鄙）

